

EFLにおけるプラグマティック・コンピテンス —「断わり」の場合—

The Pragmatic Competence in EFL Refusal

岡崎学園国際短期大学 川村陽子 名古屋女子大学 佐藤恵子

研究目的

日本人大学生は、依頼に対する「断わり」の発話行為において、言語使用の状況的因子(situational factors)により、どのように英語表現を変化させることができるだろうか。本研究は、英語学習者の語用論的能力(pragmatic competence)に焦点をあてる。状況的因子としては、次の3つを取り上げる。

1. 心理的距離(親疎関係)
2. 社会的距離(上下関係)
3. 「断わり」に対する相手の不快感

データ分析においては、以下の research questions を検証することを目的とする。

Research Questions

1. 上位群と下位群で、状況的因子の perception に違いが認められるか。
2. 相手の依頼に対する「断わり」において、上位群と下位群で言語表現を使用する比率に差があるか。
3. 上位群と下位群で、「断わり」の直接表現・間接表現の使用に違いがあるか。
4. 「断わり」の直接表現・間接表現において、上位群と下位群は使用する意味公式(semantic formula)の種類と使用比率に差があるか。

調査方法

被験者

男女共学の大学一年生2クラス、2年生1クラス、女子大学2年生2クラス、合計185名がこの調査に参加した。専門は、仏文科1クラス、人類学科1クラス、英語英文学科3クラスである。性別はこの発表では要因として取り上げないが、男子学生21名、女子学生164名である。英語の能力差による上位群と下位群を決めるために、Comprehensive English Language Test (CELT)のForm BのStructureのsectionのみを使用した。実際に分析したのは、上位群49名(75点満点中65-55点)、下位群49名(43-33点)のデータである。

Questionnaire

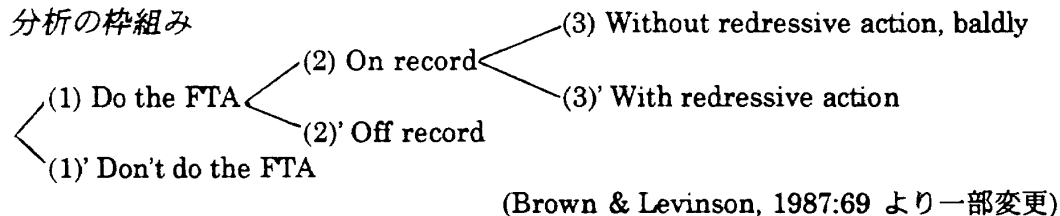
データ収集はアンケート記入方式によった。断わり易さの度合、相手との心理的距離の大小、相手との社会的距離の大小、という3つの状況的因子の組み合わせによって、8場面を設定した。各場面のアンケートの構成は、次の3項目からなっている。

- (1) 依頼に対して、「断わり」の言語行動を起こすかどうか。
 - (2) 断わる場合、どんな意味公式を含む言語行動をとるか。
 - (3) 相手に対する心理的距離・社会的距離・「断わり」に対する相手の不快感。
- (1)は2者択一方式で、(2)は記述式で、(3)は5段階のスケールで回答を求めた。

9月5日(金) 研究発表第6室(16号館307)

分析方法

状況的因子の組み合わせが異なる8つの場面での「断わり」の発話行為について、以下に示す Brown & Levinson (1987: 69)の枠組みに基づいた分析項目に関する、上位群と下位群の使用比率を分析した。

分析の枠組み

- (1) 依頼に対する「断わり」を言語に表現する。
- (1)' 依頼に対する「断わり」を言語に表現しない。
- (2) 依頼に対する「断わり」を直接的に表現する。
- (2)' 依頼に対する「断わり」を間接的に表現する。
- (3) 依頼に対する「断わり」で直接的表現のみを使用する。
- (3)' 依頼に対する「断わり」で直接的表現に加えて、それを緩和する機能を担う表現を使用する。

(2)' と(3)'については、以下に示す発話の力(illocutionary force)を調節する機能を担う意味公式の各々の項目に関して、上位群と下位群の使用比率を分析した。

意味公式

- I. Address term
- II. Grounder (giving reasons / excuse)
- III. Supportive moves
 - Apology / Regret
 - Alternative
 - Cost minimizer
 - Desire
- IV. Intensifier
 - Repetition

考察

1. 相手に対する心理的・社会的距離(Factor I & II)については、上位群・下位群に perception の違いは認められない。しかし、「断わり」に対する相手の不快感(Factor III)の perception は、上位群・下位群に有意差が認められる。
2. 上位群と下位群では、「断わり」の言語行動を起こすかどうかについて、ほとんど有意差が認められない。両群ともに、Factor III が決定要因となっている。
3. 上位群と下位群で、「断わり」の直接表現と間接表現の使用率に有意差が認められる。上位群の方が下位群に比べて、「断わり」の直接表現の使用率がほとんどの場面で高い。依頼内容が同じ場合、両群とも相手に対する心理的距離 (Factor I) により「断わり」の直接表現と間接表現を使い分けている。(心理的距離が遠いほど直接表現の使用率が高い。)

4. 上位群・下位群ともに、「断わり」の直接表現より間接表現のほうが、意味公式の使用比率が高い。Alternative と Desire については、上位群の方が心理的距離に応じて明確に使い分けている。Grounder と Apology については、下位群の方がほとんどあらゆる場面で使用比率が高い。

今後の課題

言語習得の最終課題は、さまざまな発話の場面に応じて、目標言語を適切に使用できる能力を身につけることにある。言語使用が社会・文化の規範を反映している事実に基づけば、「断わり」の発話行為についても、世界のさまざまな英語の変種により、その適切さの規範は異なるといえるだろう。したがって、日本人大学生を対象にした「断わり」の発話行為における EFL のプラグマティック・コンピテンスを明らかにすることは、目標言語を習得するうえでの前提となる。EFL としての日本人の英語と目標とする英語変種との共通点や相違点を明らかにし、その成果を英語教育に取り入れていくことは、今後の課題である。

参考文献

- Beebe, L. M., Takahashi, T. & Uliss-Weltz, R. (1990). Pragmatic Transfer in ESL Refusals. In R. C. Scarcella, E. S. Anderson, & S. D. Krashen (Eds.), Developing Communicative Competence in a Second Language. New York: Newbury House Publishers.
- Beebe, L. M., & Cummings, M. C. (1996). Natural speech act data versus written questionnaire data: How data collection method affects speech act performance. In S. M. Gass, & J. Neu (Eds.), Speech Acts Across Cultures: Challenges to Communication in a Second Language. Mouton de Gruyter.
- 生駒知子・志村明彦(1993)「英語から日本語へのプラグマティック・トランスファー: 「断わり」という発話行為について」『日本語教育 79号』pp. 41-52.
- 横山杉子(1993)「日本語における、『日本人の日本人に対する断わり』と『日本人のアメリカ人に対する断わり』の比較—社会言語学のレベルでのフォリナトーク」『日本語教育 81号』pp. 141-151

表1 Mean of Perception

STN \ FTR	S1	S2	S3	S4	S5	S6	S7	S8
Factor I	3.73	1.84	3.57	1.92	3.88	1.32	3.96	2.89
	3.82	1.81	3.77	1.27	4.06	1.39	4.13	2.79
Factor II	4.33	4.71	2.90	3.02	2.81	3.00	4.15	4.30
	3.65	3.96	2.81	2.88	2.96	2.78	3.68	3.64
Factor III	2.63	3.37	2.63	2.92	2.04	2.15	3.02	2.33
	3.08	3.60	2.71	3.02	2.53	2.79	3.27	3.16

N=98 Upper figures: Higher-level subjects (n=49) / Lower figures: Lower-level subjects (n=49)

9月5日(金) 研究発表第6室(16号館307)

表2 Percentage of Strategy Use

SITUATION STRATEGY	S1	S2	S3	S4	S5	S6	S7	S8
	Refuse	95.92 100.00	18.75 36.96	93.88 91.11	38.30 36.36	95.92 91.49	80.43 80.00	37.50 43.48
On Record	44.90 42.22	10.42 10.87	61.22 40.00	12.77 4.54	26.53 14.89	23.91 15.56	14.58 4.35	17.78 4.76
Grounder	32.65 37.78	8.33 10.87	34.69 35.56	8.51 2.27	20.41 14.89	19.57 15.56	8.33 4.35	13.33 2.38
Apology	34.69 35.56	4.17 10.87	40.82 37.78	8.51 4.54	18.37 10.64	15.22 15.56	8.33 4.35	11.11 4.76
Alternative	12.24 0.00	4.17 4.35	14.29 2.22	6.38 4.54	6.12 2.13	10.87 4.44	8.33 2.17	4.44 0.00
Desire	6.12 6.67	4.17 0.00	4.08 0.00	0.00 0.00	0.00 0.00	0.00 0.00	2.08 0.00	0.00 0.00
Off Record	51.02 57.78	8.33 26.09	32.65 51.11	25.53 31.82	69.39 76.60	56.52 64.44	22.92 39.13	40.00 54.76
Grounder	44.90 57.78	8.33 26.09	28.57 51.11	14.89 31.82	69.39 76.60	56.52 62.22	20.83 39.13	40.00 54.76
Apology	44.90 55.56	6.25 23.91	30.61 42.22	21.28 13.64	67.35 68.09	47.83 53.33	22.92 36.96	37.78 47.62
Alternative	10.20 6.67	4.17 4.35	10.20 4.44	12.77 13.64	34.69 17.02	28.26 28.89	10.42 0.00	13.33 16.67
Desire	18.37 4.44	2.08 4.35	4.08 6.67	4.26 6.82	4.08 6.38	2.17 2.22	0.00 0.00	2.22 2.38

N=98 Upper figures: Higher-level subjects (n=49) / Lower figures: Lower-level subjects (n=49)